

ストップ介護離職2

仕事を続けながら認知症の家族と暮らす

公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団
The Dia Foundation for Research on Ageing Societies

ダイヤ高齢社会研究財団シンポジウム

ストツプ介護離職2

「仕事を続けながら認知症の家族と暮らす」

日時／平成二十八年十一月十一日（金）

会場／丸の内 MY PLAZAホール

主催／公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団

協力／明治安田システム・テクノロジーズ株式会社

介護の広場事業部門

後援／厚生労働省

内閣府

公益社団法人認知症の人と家族の会東京都支部

一般社団法人シニア社会学会

国際長寿センター

「新老人の会」

いあいあい

公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団

理事長 富澤 龍一

当研究財団は、1993年の設立以来、「しあわせで活力ある長寿社会」の実現を目指して、高齢社会におけるさまざまな問題について、実践的な調査・研究を行ってまいりました。またその成果に基づいて議論を深める場として、毎年高齢社会の趨勢を見据えたテーマを設定し、シンポジウムを開催しております。

本書は、2016年11月に開催したシンポジウム「ストップ介護離職2 ヶ仕事を続けながら認知症の家族と暮らす」の講演録です。

総務省の発表によりますと、2016年10月1日現在、65歳以上の高齢者の人口は3、463万人と推計され、総人口に占める割合は27・3%であり、人口、割合ともに過去最高となりました。また、厚生労働省の補助事業による調査（2012年）によれば、認知症有病率は、年齢が高くなるにつれて上昇し、80歳～84歳では男性は6人に1人、女性は4人に1人、90歳～94歳では男性は2人に1人、女性は3人に2人が認知症だと言われており、年齢の高い高齢者の増加とともに認知症の方の数も急激に増加すると見込まれています。

さて、当財団では2013年に「超高齢社会における従業員の働き方と企業の対応に関する調査」を行い、多くの従業員が親の介護による離職リスクを抱えていることを明らかにしました。さらに2014年には、明治安田生活福祉研究所と共同で「仕事と介護の両立と介護離職に関する調査」を行うとともに、「ストップ介護離職」を

テーマにシンポジウムを開催し、主に企業側の視点から「介護離職」について議論しました。

「ストップ介護離職」の第2弾となる今回は「介護をする家族」、なかでも介護者にとつて負担が大きくなりがちな被介護者が認知症であるケースにスポットを当てました。在宅医療の第一人者である佐々木淳先生に「認知症の理解とケアのあり方」についてご講演いただき、さらに、認知症のご家族を介護されてきた方、在宅介護事業を行っている方、企業で労制・福祉関係をご担当されている方、佐々木先生によるディスカッションで議論を深めました。本書が、今後の高齢社会を考えるうえで参考になれば幸いに存じます。

最後に、このシンポジウムの開催にあたり、ご協力いただきました明治安田システム・テクノロジー株式会社 介護の広場事業部門、ならびにご後援いただきました厚

生労働省、内閣府、公益社団法人認知症の人と家族の会 東京都支部、一般社団法人
シニア社会学会、国際長寿センター、「新老人の会」に対し、厚くお礼申しあげます。

ストツプ介護離職2

（仕事を続けながら認知症の家族と暮らす）

第一章 テーマ解説・問題提起

「仕事と介護の両立と介護離職に関する調査結果」より

（公財）ダイヤ高齢社会研究財団 常務理事 樋渡 泰典

9

第二章 講演

認知症の理解とケアのあり方

（医）悠翔会 理事長・診療部長 佐々木 淳

19

第三章 パネルディスカッション

仕事を続けながら認知症の家族と暮らす

コーディネーター 石橋智昭 (公財)ダイヤ高齢社会研究財団 研究部長

パネリスト 坂本恵司 認知症の人と家族の会会員／仕事と介護の両立経験者

田中充夫 認知症の人と家族の会会員／介護離職経験者

佐々木淳 (医)悠翔会 理事長・診療部長

杉山想子 (株)やさしい手 居宅介護支援事業部長

前川博昭 三菱化学(株) 人事部労制グループグループマネジャー

【第一章】 テーマ解説・問題提起

「仕事と介護の両立と

介護離職に関する調査結果」より

(公財)ダイヤ高齢社会研究財団 常務理事

樋渡 泰典



皆さん、こんにちは。ダイヤ高齢社会研究財団の樋渡と申します。

最近マスメディアで介護離職問題が取り上げられることが多くなってきましたが、ダイヤ財団は介護離職に早くから着目していました。平成25年には、三菱グループの企業、従業員を対象に、高齢社会の中での従業員の働き方、企業の対応に関する調査を行い、「親の介護のために離職するリスク」については、多くのマスメディアで取り上げていただきました。さらに、その結果を携えて一昨年に行った「ストップ介護離職」をテーマにしたシンポジウムでは、企業福祉を専門とされている大学の先生をコパネーターに迎えて、主に企業側の視点から介護離職について議論しました。

本日のシンポジウムは「ストップ介護離職」の第2弾として、介護をする家族にスポットを当て、なかでも誰もが直面する可能性があり、介護をする人にとって非常に負担が重

「仕事と介護の両立と介護離職に関する調査」

公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団
株式会社 明治安田生活福祉研究所 共同プロジェクト

- ◆ 調査時期： 2014年8月30日～9月1日
- ◆ 調査対象： 親の介護を経験した（介護中も含む）全国の40歳以上の男女のうち、介護開始時の働き方が「正社員」の人
- ◆ 調査方法： インターネット調査
- ◆ 回収数： 2,268名
 - 継続就労者 773名
 - 同一企業での働き方変更者 361名
 - 転職者 567名
 - 介護専念者 567名

ダイヤ財団

くなりがちな、介護を受ける方が認知症というケースを取り上げました。

アンケート「仕事と介護の両立と

介護離職に関する調査」結果報告

これからご紹介するのは、ダイヤ財団と明治安田生命グループのシンクタンクである明治安田生活福祉研究所が共同で実施したアンケート調査結果です。この調査では介護をするまで正社員として働いていた方を対象にして、介護に直面した後に ①介護と仕事を両立して就労を

介護離職の直接のきっかけ

(複数回答) ※上位9項目

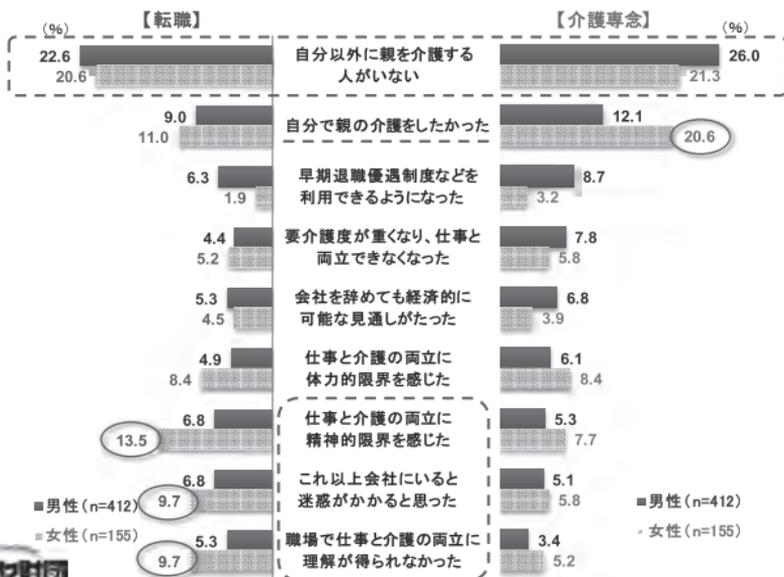


図1 離職した直接のきっかけ

継続された方、②勤めていた会社から転職された方、③会社を離れそのまま介護に専念された方、とそれぞれの立場の方に分けて分析を行いました。本日はその中からいくつかの調査結果をご紹介します。

図1は介護に直面し離職した方の「離職した直接のきっかけ」をまとめたグラフです。転職された方も介護に専念された方も、男女ともに「自分以外に介護をする人がいなかった」と回答された方が最も多いという結果です。また、介護に

介護離職時の状況

○ 介護開始から勤務先を辞めるまでの期間

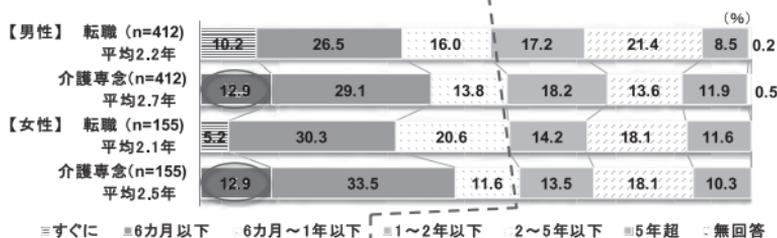


図2 介護開始から勤務先を辞めるまでの期間

専念された女性の方では「自分で親の介護をしたかった」という回答が特異的に数字が大きくなっています。さらに、転職された女性の方では、「仕事と介護の両立に精神的な限界を感じた」、「これ以上会社にいると会社に迷惑が掛かると思った」、「職場で仕事と介護の両立に理解が得られなかった」という職場の問題を理由に挙げている方が多数いました。この点については、企業のご担当の方にはしっかり認識していただきたいと思えます。

図2は、介護離職をしたときの状況について訊いたもので、介護を始めてから職場をやめるまでの期間を尋ねた結果です。転職した人も介護に専念した人も、男性も女性も半数を超える人が、1年以内に職場を離れています。また、

介護離職時の状況

○ 離職時の親の介護認定状況

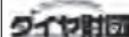
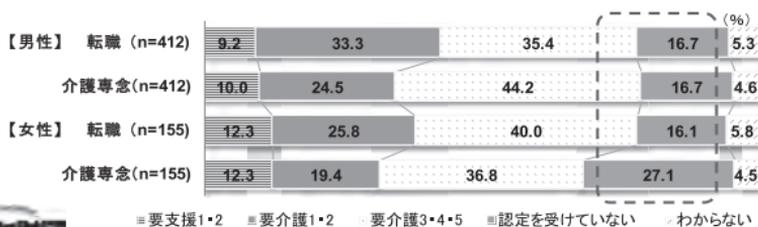


図3 離職時の親の介護認定状況

介護に専念された方のうち約13%の方は、親の介護が必要になつてすぐに離職しています。

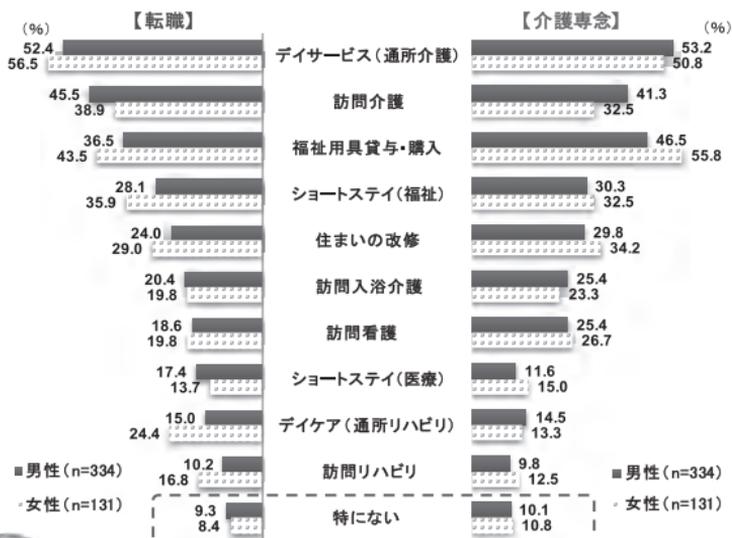
図3は、離職した際の親の要介護度を示したグラフです。要介護3以上の割合が大きいのですが、介護認定を受ける前に介護のために離職してしまった人もかなりの数いることがわかります。

図4は要介護認定を受けた人を介護していた人に、利用した介護サービスについて質問した結果です。転職された方も介護に専念された方も、いずれも10%近い方が「特に受けたサービスはない」と答えているのには驚きました。

図5は、もともと正社員として働いていた人が転職したケースについて、働き方、年収の変化を調べた結果です。

利用した公的介護保険サービス

(介護認定を受けた人/複数回答)
※ 上位10項目と「特にない」

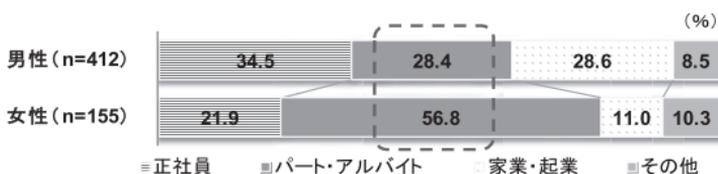


ダイヤ財団

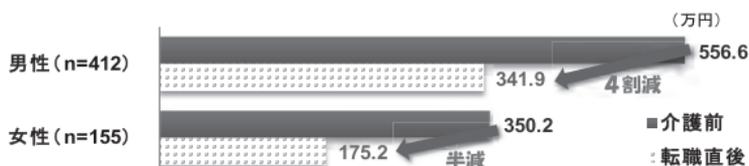
図4 利用した公的介護保険サービス

介護転職者の状況

○ 介護転職後の働き方



○ 介護転職者の年収の変化



ダイヤ財団

図5 介護転職者の状況

転職後も正社員として働いている人は、男性が3人に1人、女性は5人に1人だけで、特に女性は約6割がパートやアルバイトとして働いていました。また、年収は、転職前後で男性が約4割減、女性は半減という非常に厳しい結果でした。

調査から浮き彫りになった介護離職の問題

これらの結果から、①親の介護を自分1人で抱え込まざるを得ないような状況が介護離職につながっている。②公的介護保険などの制度を十分に利用しないまま仕事をやめてしまうケースがかなりある。③会社のサポートや職場環境によっては介護離職が避けられたいかもしれない。④勤務先をやめることで介護者本人が非常に大きな経済的なダメージを負う、という問題が浮き彫りになりました。この調査は、認知症の親を介護している人だけを対象とした調査ではありません。認知症の親を介護している人は、この調査の結果以上に大変な状況にあるのではないかと思われれます。

司会者 本日は、「仕事を続けながら認知症の家族と暮らす」がテーマです。在宅医療の第一人者の佐々木先生から、「認知症の理解とケアのあり方」というテーマでご講演をいただき、その後、実際に認知症の家族を介護され仕事と両立できた坂本氏、離職を余儀なくされた田中氏、主任介護支援専門員（主任ケアマネジャー）の杉山氏、民間企業で人事制度等を担当されている前川氏から話題を提供していただき、その後佐々木氏も加わっていただき、当財団の石橋研究部長をコーディネーターに、議論を深めることにしています。ご登壇される皆さま、どうぞよろしく願います。

それでは、本日の講師をご紹介します。医療法人社団悠翔会の理事長で診療部長をなさっている佐々木淳先生です。佐々木先生は、我が国の在宅医療の第一人者で、今回のシンポジウムの開催にご協力いただいた明治安田生命グループの介護の総合情報サイト「MY介護の広場」にも多くの記事を書かれています。本日は、「認知症の理解とケアのあ

り方」についてご講演いただきます。それでは、佐々木先生、よろしくお願いいたします。